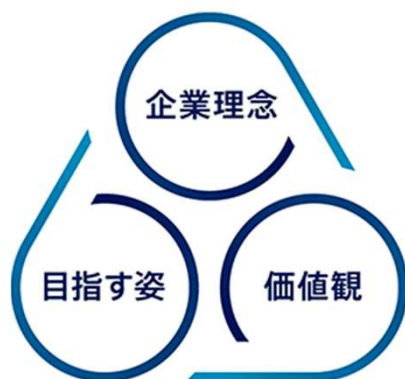




2020年度 第3四半期 決算説明会資料

2021年2月4日



企業理念

素材の力を引き出す技術で、
持続可能で豊かな社会の
実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて
環境負荷を減らし、
軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

株式会社UACJ

1. 2020年度 第3四半期業績

2. 2020年度 通期業績見通し

3. 構造改革の進捗

1. 2020年度 第3四半期業績

経常利益 △ 6 億円（前年同期比 19億円減）

■ 数量：前年同期比減

- ・UATH^{*1}（タイ）、TAA^{*2}（米国）の缶材が増加
- ・自動車を中心とした輸送用機械向けは3Q累計では減少も
3Q(10～12月)からは回復基調

■ 経常利益：前年同期比 19億円減

◎ 増益要因

- ・UATH業績改善
- ・TAA業績改善
- ・棚卸評価関係の好転

△ 減益要因

- ・コロナ影響による販売減
- ・経営環境悪化に伴う販売減
(米中貿易摩擦の長期化等)
- ・販売減に伴う国内製造所の操業度低下等

2020年度 第3四半期業績



(単位：億円)

	2019年度 3Q累計 (A)	2020年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
連 結 売 上 高	4,628	4,074	△553
連 結 営 業 利 益	56	31	△26
棚 卸 影 響 前 連 結 経 常 利 益	61	23	△38
棚 卸 影 響 額	△48	△29	19
連 結 経 常 利 益	13	△6	△19
連 結 当 期 純 利 益	6	△47	△53
Adjusted EBITDA	336	310	△26

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

セグメント別 売上高・営業利益



(単位：億円)

	2019年度 3Q累計 (A)		2020年度 3Q累計 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	3,757	70	3,414	73	△343	3
加工品・関連事業	1,438	25	1,221	△7	△217	△32
伸 銅 品	229	4	-	-	△229	△4
(調 整 額)	△796	△43	△561	△35	235	8
合 計	4,628	56	4,074	31	△553	△26

アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2019年度 3Q累計 (A)	2020年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	518	542	24
箔 地	33	38	6
I T 材	13	19	6
自 動 車 材	113	83	△29
厚 板	28	28	1
その他一般材	148	119	△29
合 計	852	830	△21
	<div> <div>国内市場向け 368</div> <div>海外市場向け 484</div> </div>	<div> <div>国内市場向け 324</div> <div>海外市場向け 506</div> </div>	<div> <div>△44</div> <div>22</div> </div>

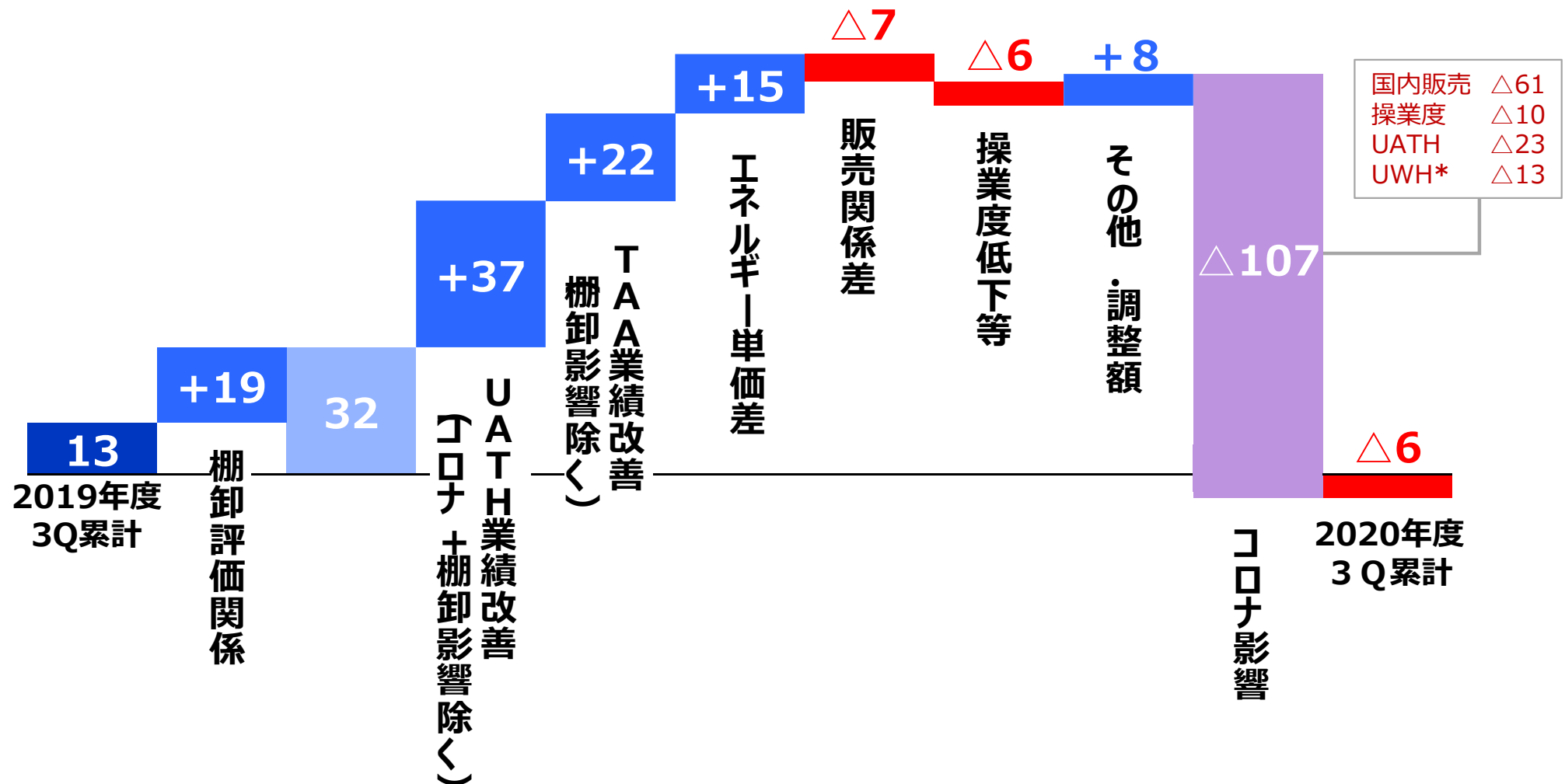
連結経常損益分析

(2019年度 3Q累計 → 2020年度 3Q累計)



13億円 (2019年度 3Q累計) → \triangle **6** 億円 (2020年度 3Q累計)

(単位：億円)



2020年度 3Q <連結貸借対照表>



手持ち資金を手厚くするも、たな卸資産圧縮などにより総資産180億円の圧縮

(単位：億円)

	20/3末	20/12末	20/3末比 増減額
現金及び預金	287	467	180
受取手形及び売掛金	1,009	1,113	104
たな卸資産	1,359	1,243	△ 116
その他流動資産	233	176	△ 59
固定資産	4,255	3,964	△ 291
投資その他の資産	384	387	3
資産合計	7,528	7,348	△ 180
支払手形及び買掛金	960	978	17
短期借入金	1,078	1,098	20
長期借入金	2,362	2,371	8
その他	1,100	1,035	△ 65
株主資本合計	1,828	1,771	△ 57
その他包括利益・支配株主持分	200	96	△ 104
負債及び純資産合計	7,528	7,348	△ 180

新型コロナウイルス禍への対応で
手持ち資金の増加

たな卸資産の圧縮による
フリーキャッシュフロー好転

事業売却による
総資産の減少
(構造改革の成果)

2020年度3Q <連結キャッシュフロー計算書>



2020年度3Qはコロナ禍においてもフリーキャッシュフローは黒字を維持

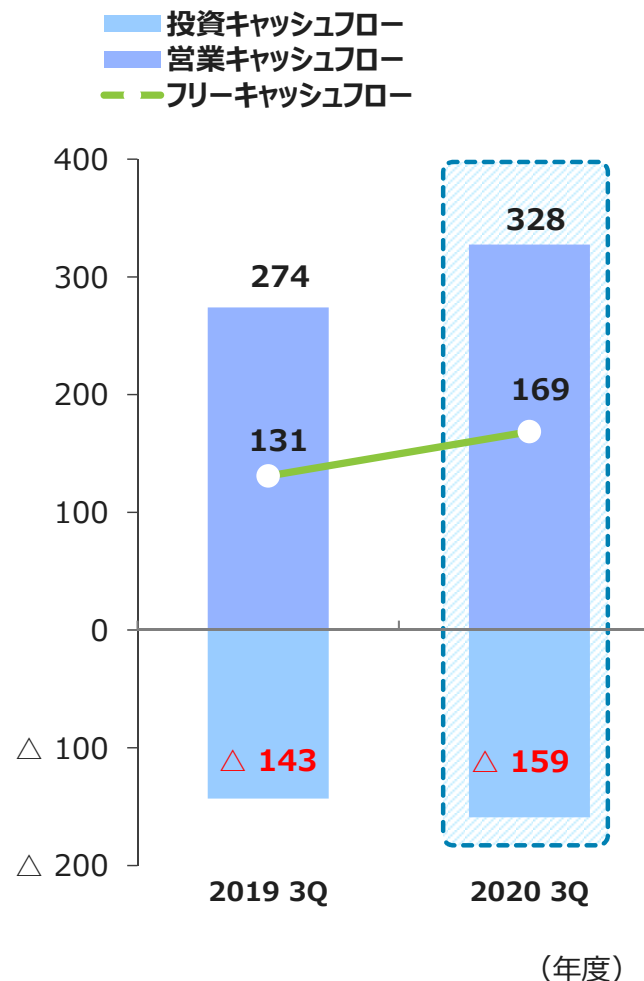
2020年度3Q 連結キャッシュフロー

(単位：億円)

税引前利益	△ 13.0
減価償却費（のれん含む）	250.1
債権債務増減他	90.4
営業キャッシュ・フロー計	327.5
設備投資	△ 194.2
連結範囲変更を伴う 子会社株式の売却	35.2
フリー・キャッシュ・フロー	168.5
配当他	△ 16.9
現預金増減（△は増加）	△ 179.6
有利子負債の増加	△28.1

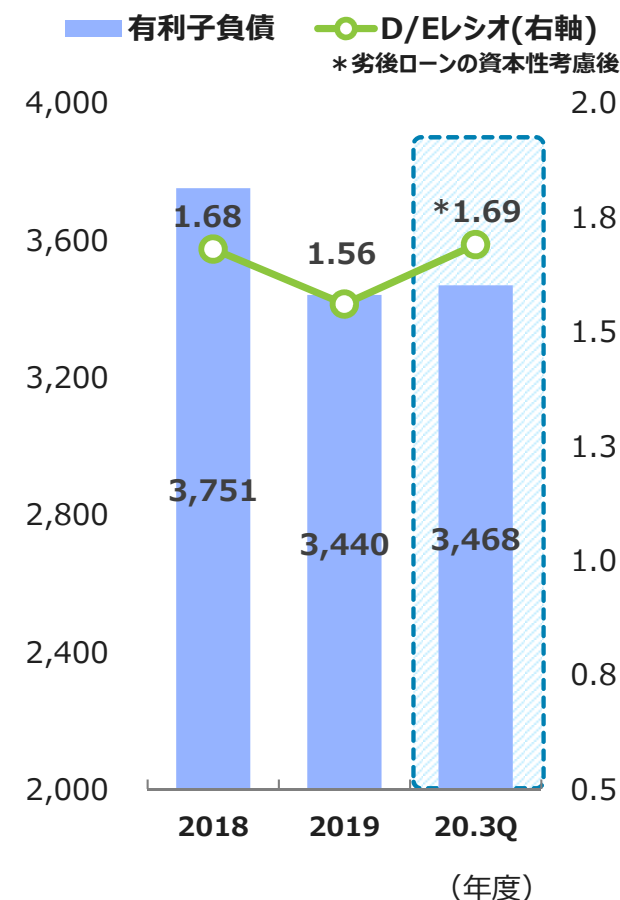
連結キャッシュフロー推移

(単位：億円)



有利子負債残高・D/Eレシオ

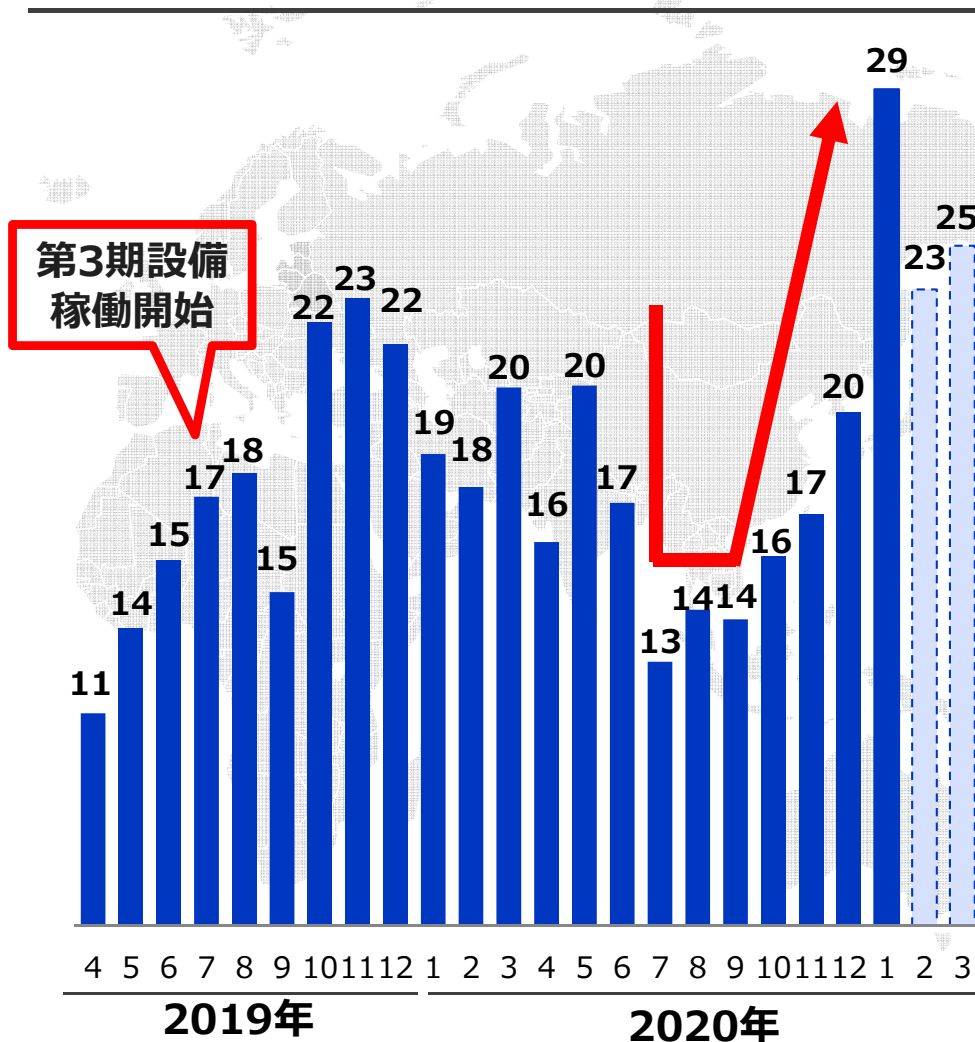
(単位：億円)



タイ(UATH)の状況 ~2020年度 3Q総括

コロナ影響のボトムは3Q、12月からは旺盛な需要が追い風となり、販売量は増加へ

UATH 月次販売量 (単位：千t)



3Q総括

缶材需要： コロナ影響による販売減のボトムは3Q(7~9月)
12月より、旺盛な需要が追い風となり月販20千t強まで回復

生産量： 約13千t/月 (3Q: 7~9月)

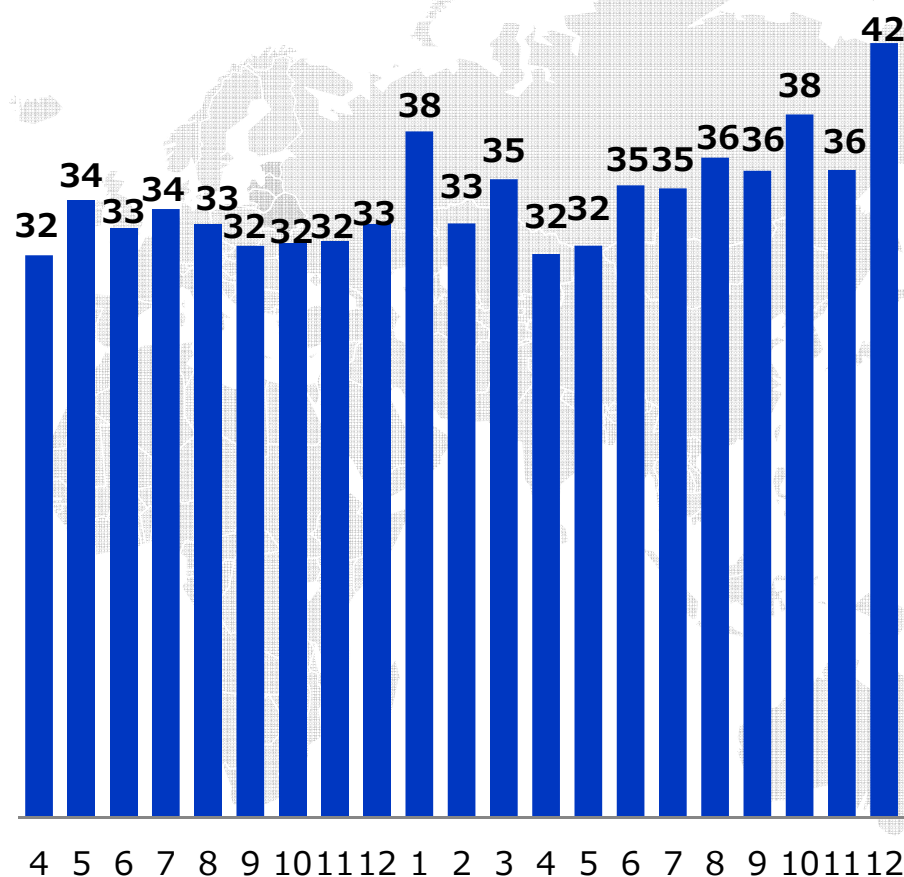
販売量： 約13千t/月 (3Q: 7~9月)

損益：

	19年 3Q累計	20年 3Q累計	前年 同期比
売上高	464	468	4
営業利益	△35	△30	5
経常利益	▲39	▲37	2
棚卸影響前 経常利益	△43	△29	14

コロナ禍でも旺盛な北米缶需要を取り込み、増収増益

TAA 月次販売量 (単位：千t)



2019年

2020年

3Q総括

缶材需要：旺盛な需要環境継続

販売量： 約39千t/月 (10~12月)

設備： 約450千t/年 体制始動

損益：

	(億円)		
	19年 3Q累計	20年 3Q累計	前年 同期比
売上高	963	995	32
営業利益	31	77	45
経常利益	13	60	47
棚卸影響前 経常利益	41	63	23

2. 2020年度通期業績見通し

2020年度 通期業績見通し



(単位：億円)

	2020年度 (2Q時開示) (A)	2020年度 (最新見通し) (B)	2019年度 (C)	増 減 (B) - (A)	増 減 (B) - (C)
連結売上高	5,500	5,600	6,151	100	△551
連結営業利益	35	80	101	45	△21
棚卸影響前 連結経常利益	1	22	98	21	△76
棚卸影響額	△36	△12	△60	23	48
連結経常利益	△35	10	38	45	△28
連結当期純利益	△95	△65	20	30	△85
Adjusted EBITDA	413	437	473	24	△36

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2020年度 (2Q時開示) (A)	2020年度 (最新見通し) (B)	2019年度 (C)	増 減 (B) - (A)	増 減 (B) - (C)
缶 材	733	721	702	△12	19
箔 地	54	52	44	△2	8
I T 材	24	24	17	1	8
自 動 車 材	117	122	152	5	△29
厚 板	39	40	39	2	1
その他一般材	159	182	199	24	△16
合 計	1,125	1,142	1,153	17	△11
	<div>国内市場向け 435</div> <div>海外市場向け 691</div>	<div>国内市場向け 439</div> <div>海外市場向け 703</div>	<div>国内市場向け 483</div> <div>海外市場向け 669</div>	<div>5</div> <div>12</div>	<div>△44</div> <div>33</div>

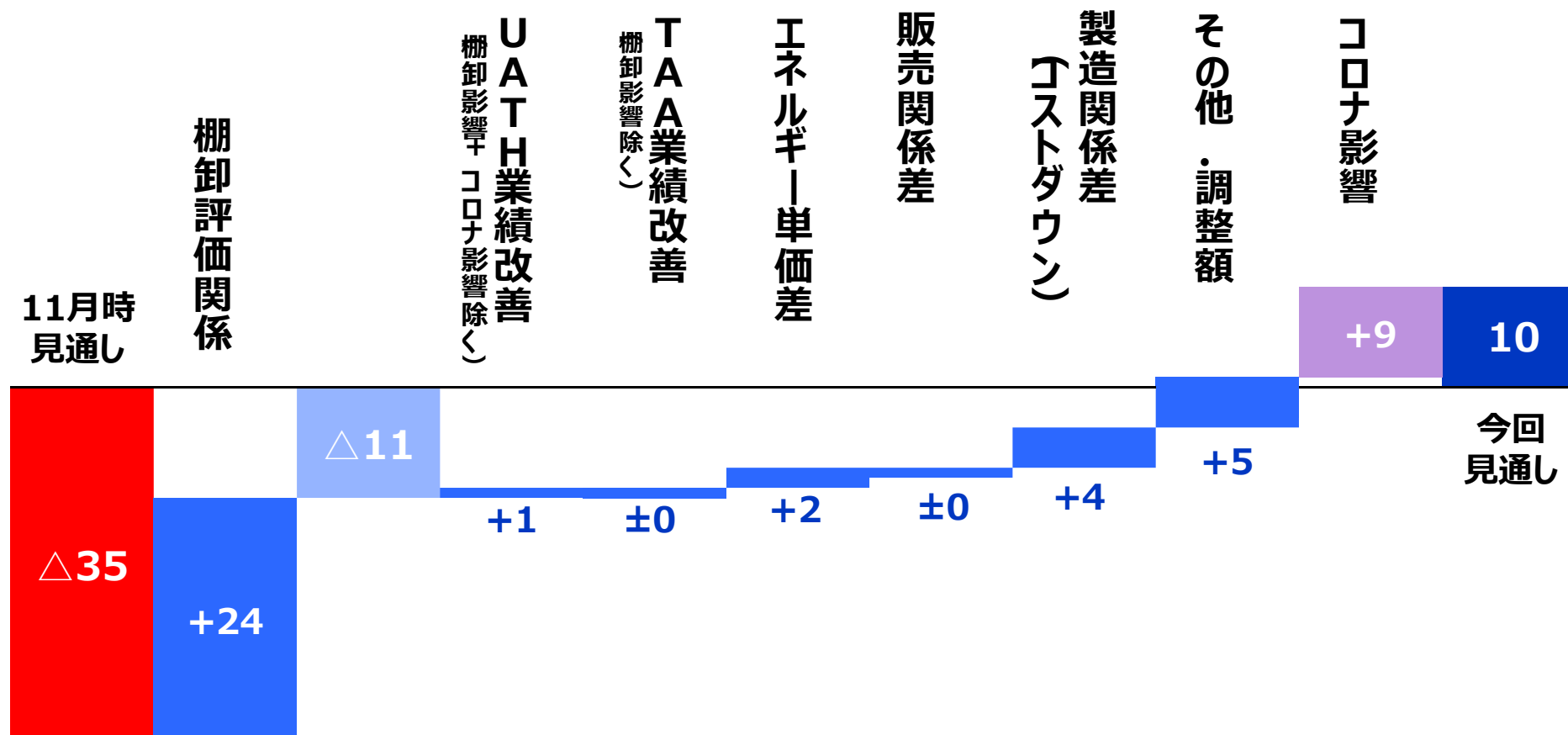
連結経常損益分析

(2020年度11月時見通し → 2020年度 今回見通し)



△35億円 (11月時見通し) → 10億円 (今回見通し)

(単位：億円)

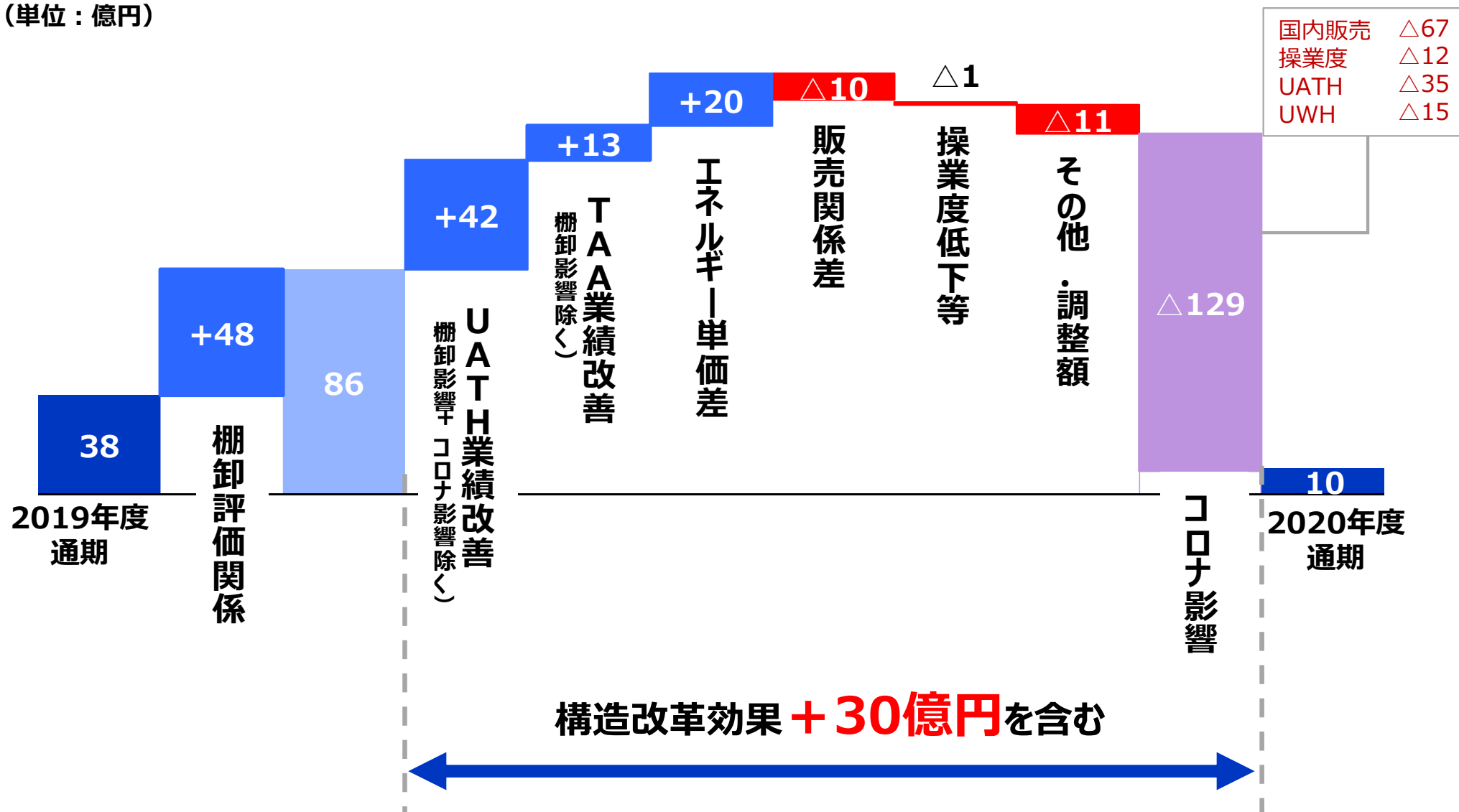


連結経常損益分析

(2019年度 → 2020年度 今回見通し)

38億円 (2019年度) → 10億円 (2020年度今回見通し)

(単位 : 億円)



3. 構造改革の進捗

構造改革の各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗

計画通り進捗

● 現時点

施策		2019年度		2020年度				2021年度				2022年度			
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
生産拠点集約		★深谷下工程 一部停止						★日光移管完了 ★押出小山/名古屋プレス集約				★深谷下工程 停止完了			
		移管・品質確認・人員再配置調整													
		集約効果													
		集約効果のフル貢献													
大型投資 収益化	UATH	3期設備 品質確認 生産量拡大 販売 32万トン/年 体制													
	TAA	★新冷延稼働 品質確認 販売 45万トン/年 体制													
不採算分野/ ノンコア分野撤退		売却・撤退候補分野の撤退検討													
		売却・撤退の実施													
		継続的な撤退の検討													
ガバナンス マネジメント	取締役・ 役員体制見直し	新体制検討 新体制準備 新体制での運営													
	組織・権限・ コーポレート 機能改革	マスタープラン・ ロードマップ策定 詳細設計 改革実行フェーズ コーポレート組織 一部見直し実行													
	理念・価値観の 再確認と再構築	見直し案の策定 浸透活動													

国内収益構造改革は全ての施策がほぼ計画通り進捗

生産拠点の集約

深谷製造所下工程停止

- ✓ 自動車材の移管が完了前に需要が回復したことにより稼働継続
→21年度4Qに計画通り停止

日光製造所閉鎖

- ✓ 自動車熱交材の製造工程移管に伴う、顧客との調整も完了し、20年度4Qに計画通り閉鎖

押出小山/名古屋プレス集約と適正化

- ✓ 最新鋭プレスを活用した自動車材の生産開始

最適生産体制・品種構成改善

- ✓ 缶材、自動車材、電池材に加え、IT材、液晶半導体製造装置向け厚板などコロナ禍でも需要が増加している商材の重点販売を実施
- ✓ 価格是正交渉の継続
- ✓ 国内4製造所の生産モニタリング強化継続

間接費削減

- ✓ 間接部門の業務効率化に向け、BPR*を実施。コーポレート機能の集約及び、スリム化に向けた最適体制を検討中
- ✓ 経費コントロールを強化し、経費総額を抑制

選択と集中（不採算分野/ノンコア分野撤退）



3Qでも国内・海外共に採算性・効率性の観点からの事業再編を実行

国内事業

日光製造所閉鎖
金属加工深谷工場の閉鎖
金属加工大阪工場の閉鎖
物流子会社株式譲渡
等

海外事業

インドネシア押出会社譲渡手続き完了
タイPF熱交*事業の譲渡決定
タイ押出加工 アユタヤ工場閉鎖
等

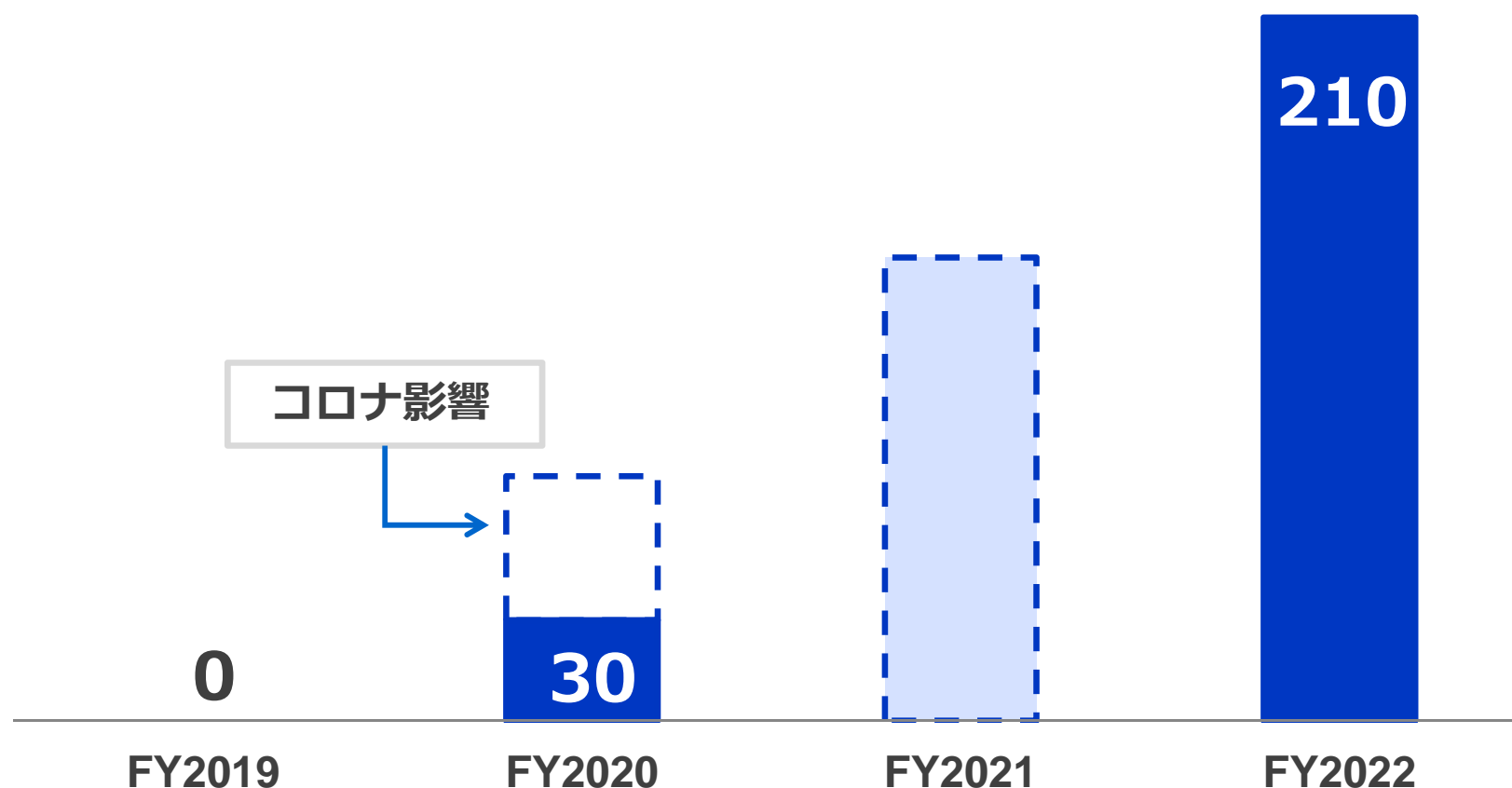
特別損失として 約△40億円

特別利益として 約 20億円 計上

コロナ禍においても、構造改革効果に徹底的にこだわり、22年度の目標は堅持する

収益改善効果（2019→2022年度） **+210億円**

（単位：億円）



タイ政府主導の環境負荷低減活動であるアルミ缶リサイクル推進プロジェクトに参画

Can to Can Journey

政府、業界関係者をUATHに招き、アルミ缶のリサイクル性、Can to Can のClosed Loop（アルミ缶プロセスにてアルミを再利用する循環）を理解して頂く活動

参画企業・団体



ご参考データ

セグメント別 売上高・営業利益



(単位：億円)

	2020年度 (2Q時開示) (A)		2020年度 (最新見通し) (B)		2019年度 (C)		増 減 (B) - (A)		増 減 (B) - (C)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,580	82	4,750	133	5,038	125	170	51	△288	8
伸 銅 品	-	-	-	-	229	4	-	-	△229	△4
加工品・関連業 事	1,730	△4	1,600	△6	1,888	31	△130	△2	△288	△37
(調整額)	△810	△43	△750	△47	△1,003	△59	60	△4	253	12
合 計	5,500	35	5,600	80	6,151	101	100	45	△551	△21

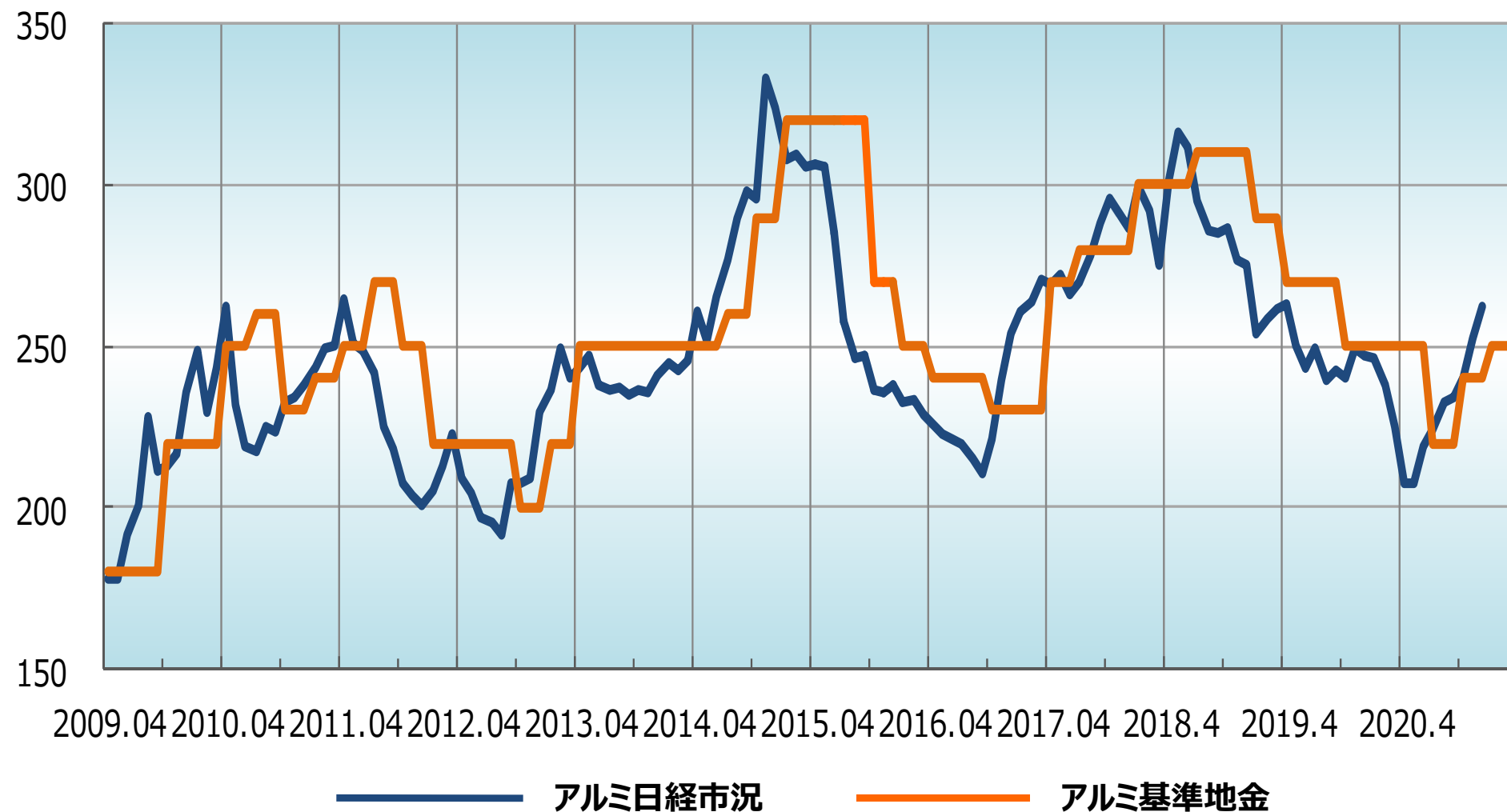
原油 CIF
(円/L)

LNG CIF
(円/Kg)



アルミ地金日経平均・アルミ基準地金

(円/Kg)



	2019年度 (実績)	2020年度 (9月末)	2020年度 (12月末)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	245	227	239	10円/kg上昇した場合 → +20～+30億円/年
LME (米\$)	1,749	1,675	1,779	\$100/t上昇した場合 → +22～+35億円/年
為替 (円/米\$)	109	105	106	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	3.5	3.4	3.4	
原油 (ドバイ：米\$)	60	40	43	10ドル上昇した場合 → △10～△15億円/年

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おさください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-3603 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)